

宮崎県感染症週報

宮崎県感染症情報センター：宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

宮崎県第32週の発生動向

重症熱性血小板減少症候群(SFTS) (全数把握対象) の報告が延岡保健所から1例あった。県内での報告は4例目となった。発症は7月下旬。60歳代女性、林業関係者で、ダニの刺し口はなく、海外渡航歴もなかった。

風しん (全数把握対象) の報告が宮崎市保健所から1例あり、32週までの累積報告数は23例となった。患者は2歳でワクチン接種歴は1回あった(1歳時)

定点医療機関からの報告総数は817人(定点あたり25.8)で、前週比105%と増加した。

前週に比べ増加した主な疾患は手足口病と水痘で、減少した主な疾患は感染性胃腸炎であった。

インフルエンザ・小児科定点からの報告

【手足口病】

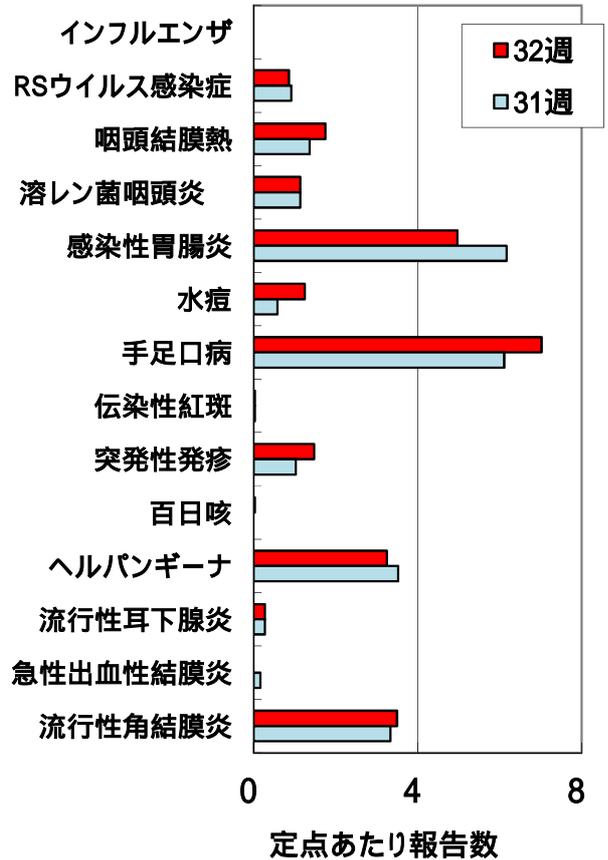
・報告数は253人(7.0)で前週比115%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値*(4.2)の約1.7倍である。日向(11.0)、宮崎市(10.4)保健所からの報告が多く、年齢別では6ヶ月から2歳が全体の約8割を占めた。

【水痘】

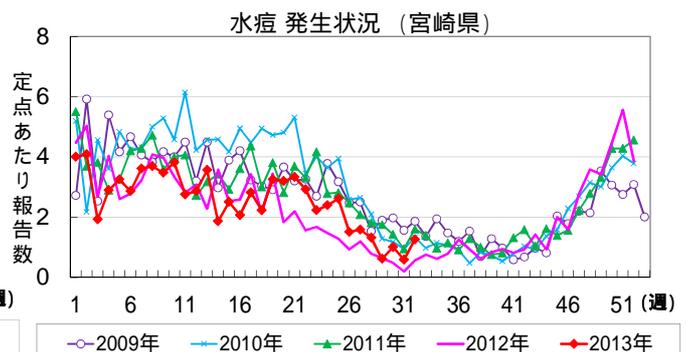
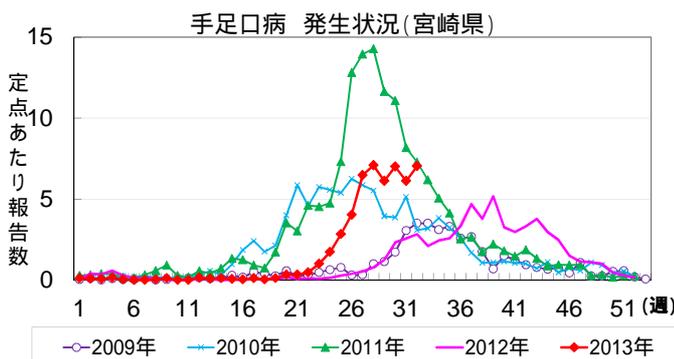
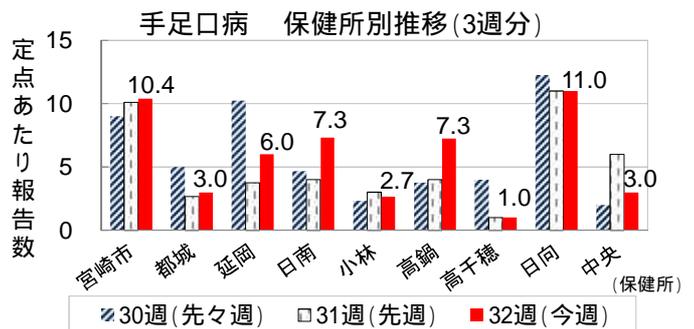
・報告数は45人(1.3)で前週比214%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値*(1.1)の約1.1倍である。日向(3.0)保健所からの報告が多く、年齢別では6ヶ月から4歳が全体の約9割を占めた。

* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均値

(前週との比較)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



基幹定点からの報告

無菌性髄膜炎：宮崎市保健所管内で1人報告された。患者は月齢0ヶ月で病原体不明。
 マイコプラズマ肺炎：日南保健所管内で1人報告された。患者は30歳代。

流行警報レベル開始基準値超過疾患

保健所名	流行警報レベル開始基準値超過疾患	
宮崎市	手足口病(10.4)	
都城	なし	
延岡	手足口病(6.0) ヘルパンギーナ(8.5)	
日南	咽頭結膜熱(5.3)、手足口病(7.3)	* 流行警報レベル開始基準値 *
小林	なし	・咽頭結膜熱(3.0)
高鍋	手足口病(7.3)	・手足口病(5.0)
高千穂	なし	・ヘルパンギーナ(6.0)
日向	手足口病(11.0)	
中央	なし	

全数把握対象疾患（32週までに届出のあったもの）

- 1 類感染症： 報告なし。
- 2 類感染症： 結核 6 例。
- 3 類感染症： 腸管出血性大腸菌感染症 2 例。
- 4 類感染症： デング熱 2 例、重症熱性血小板減少症候群 1 例。
- 5 類感染症： 梅毒 1 例、風しん 1 例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	病型	症状 等
2類	結核	宮崎市	20 歳代	無症状病原体保有者	-
			60 歳代	その他の結核 (結核性胸膜炎)	呼吸困難
			70 歳代	その他の結核 (結核性胸膜炎)	胸水
		延岡	80 歳代	肺結核	咳、痰、発熱、呼吸困難
		日南	50 歳代	無症状病原体保有者	-
			70 歳代	無症状病原体保有者	-
3類	腸管出血性大腸菌感染症	都城	1 歳	患者	水様性下痢、血便 原因菌：O103(VT1産生)
			1 歳	無症状病原体保有者	原因菌：O血清型不明(VT1産生)
4類	デング熱	宮崎市	40 歳代	デング熱	発熱、血小板減少、白血球減少 その他：海外渡航歴あり デングウイルス2型
		日南	10 歳代	デング熱	発熱、頭痛 その他：海外渡航歴あり デングウイルス3型
	重症熱性血小板減少症候群	延岡	60 歳代	患者	発熱、筋肉痛、嘔吐、全身倦怠感、血小板減少、白血球減少、発しん
5類	梅毒	小林	20 歳代	早期顕症梅毒(期)	硬性下疳
	風しん	宮崎市	2 歳	検査診断例	発しん、発熱 ワクチン接種歴：1回あり(1歳時)

病原体情報（衛生環境研究所微生物部 平成 25 年 8 月 12 日までに検出）

ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	検出日
コクサッキーウイルスB3型	1	男	2013.6.12	エコーウイルス、発疹	咽頭ぬぐい液	2013.8.12
エコーウイルス18型	7d	女	2013.6.30	髄膜炎、38.6	咽頭ぬぐい液	2013.8.5
エコーウイルス18型	1	女	2013.6.28	不明熱、発疹症、39.7、丘疹	咽頭ぬぐい液	2013.8.12
エコーウイルス18型	7M	女	2013.6.29	エンテロウイルス疑い、39.2、上気道炎、発疹、胃腸炎	咽頭ぬぐい液	2013.8.5
エコーウイルス18型	3	男	2013.7.2	無菌性髄膜炎、38.6、気管支炎、髄膜炎	咽頭ぬぐい液、髄液	2013.8.5
エコーウイルス18型	25d	女	2013.7.11	ウイルス感染疑い、百日咳疑い、咳嗽	咽頭ぬぐい液	2013.8.12
コクサッキーウイルスA6型	1	男	2013.7.1	手足口病、38.3、発疹	咽頭ぬぐい液	2013.8.8
コクサッキーウイルスA6型	2	男	2013.7.8	手足口病、鼻水、発疹	咽頭ぬぐい液	2013.8.8
デングウイルス3型	10歳代	女	2013.8.6	デング熱疑い、39.3、上気道炎、胃腸炎	血清、血漿	2013.8.7
デングウイルス2型	40歳代	男	2013.8.1	発熱、血小板減少、白血球減少、頭痛、関節痛	血清	2013.8.6

髄膜炎、発疹、咳嗽等の症状を呈した乳児3名、幼児2名からエコーウイルス18型が分離された。
 手足口病疑いの幼児2名からコクサッキーウイルスA6型が検出された。
 エコーウイルス感染症疑いの幼児1名からコクサッキーウイルスB3型が分離された。

細菌

同定細菌名	年齢(歳)	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同定日
腸管出血性大腸菌(O26:H11 VT1)	0~4	男	2013.7.17	胃腸炎、血便、水様性下痢	便	2013.7.24
腸管出血性大腸菌(O26:H11 VT1)	0~4	女	2013.7.22	下痢	便	2013.8.2
腸管出血性大腸菌(O26:H11 VT1)	0~4	男	2013.7.21	下痢	便	2013.8.6
腸管出血性大腸菌(O26:H11 VT1)	0~4	男	2013.7.21	無症状	便	2013.7.29
腸管出血性大腸菌(O26:H11 VT1)	0~4	男	2013.7.21	軟便	便	2013.7.29
腸管出血性大腸菌(O26:H11 VT1)	0~4	女	2013.7.22	下痢	便	2013.7.29
腸管出血性大腸菌(O26:H11 VT1)	0~4	女	2013.7.22	下痢、軟便	便	2013.7.29
腸管出血性大腸菌(O26:H11 VT1)	0~4	女	2013.7.22	下痢、腹痛	便	2013.7.29
腸管出血性大腸菌(O26:H11 VT1)	0~4	女	2013.7.22	下痢	便	2013.7.29
腸管出血性大腸菌(O26:H11 VT1)	5~9	女	2013.7.23	無症状	便	2013.7.30
腸管出血性大腸菌(O26:H11 VT1)	0~4	女	2013.7.24	下痢	便	2013.7.30

都城保健所管内の保育園で0~4歳児を中心としたO26:H11 VT1による腸管出血性大腸菌感染症の集団発生が起こった。国立感染症研究所の病原微生物検出情報 Vol.34 No.5によると長野県の保育所ではプール水が原因と推定される腸管出血性大腸菌感染症O26:H11 VT1の集団感染事例が報告されており、プールに入る前に足の砂を落とすタライ水から当該菌が分離されている。また、厚生労働省による「保育所における感染症対策ガイドライン」(2012年11月改訂)では 年少児が利用することの多い簡易用ミニプールも含めて、塩素消毒を含む水質管理の徹底 プール遊び前のシャワーとお尻洗いの徹底 排泄が自立していない乳幼児には個別のたらいを用意し、プールを共用しないなどが推奨されている。この時期は宮崎県でも毎年、保育園等で腸管出血性大腸菌の集団感染が発生しており、食べ物を通じた感染だけでなく、簡易用ミニプール水を通じた感染拡大の防止にも注意する必要がある。

全国第 31 週の発生動向

定点医療機関あたりの患者報告総数は 19.9 で、前週比 97%と横ばいであった。今週増加した主な疾患はRSウイルス感染症で、減少した主な疾患はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎であった。

RSウイルス感染症の報告数は1,109人(0.35)で前週比135%と増加した。沖縄県(1.5)、福岡県(1.3)、宮崎県(0.92)からの報告が多く、年齢別では2歳以下が全体の約9割を占めた。

手足口病の報告数は27,187人(8.7)で前週比98%と横ばいであった。新潟県(18.3)、埼玉県(17.2)、山梨県(16.0)からの報告が多く、年齢別では1歳から3歳が全体の約7割を占めた。

ヘルパンギーナの報告数は10,255人(3.3)で前週比96%と横ばいであった。山形県(9.0)、新潟県(8.5)、高知県(7.0)からの報告が多く、年齢別では1歳から4歳が全体の約7割を占めた。

全数把握対象疾患(全国第31週)

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	431例				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	163例	腸チフス	2例		
4類感染症	E型肝炎	1例	A型肝炎	1例	オウム病	1例
	つつが虫病	2例	デング熱	5例	日本紅斑熱	1例
	ライム病	1例	レジオネラ症	23例	レプトスピラ症	1例
5類感染症	アメーバ赤痢	13例	ウイルス性肝炎	4例	急性脳炎	1例
	クリプトスポリジウム症	1例	クロイツフェルト・ヤコブ病	1例	後天性免疫不全症候群	12例
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	4例	侵襲性肺炎球菌感染症	7例	梅毒	15例
	破傷風	3例	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1例	風しん	125例
	麻しん	3例				

月報告対象疾患の発生動向 <7月>

性感染症

【宮崎県】 定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は43人（3.3）で、前月比196%と増加した。また、昨年7月（2.7）の約1.2倍であった。

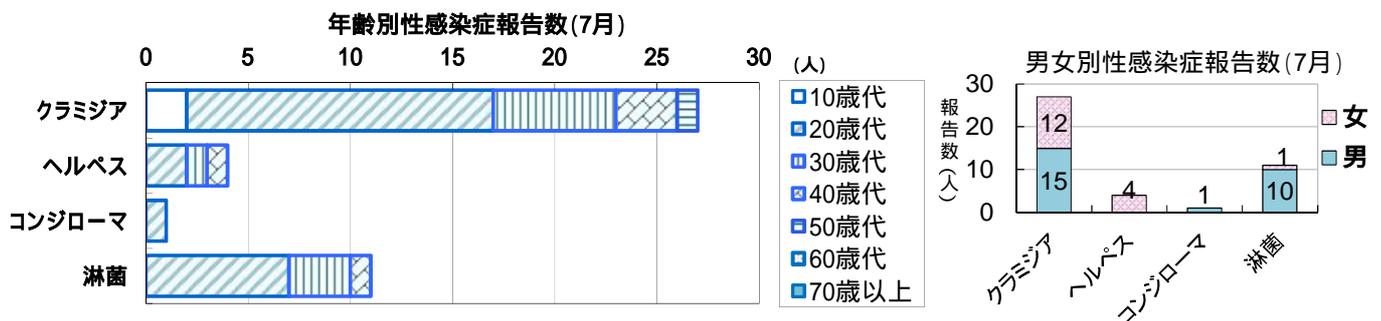
《疾患別》

性器クラミジア感染症：報告数27人（2.1）で、前月の約1.8倍、前年の約1.4倍であった。20歳代が全体の約6割を占めた。

性器ヘルペスウイルス感染症：報告数4人（0.31）で、前月と同程度、前年の約7割であった。20歳代が2人、30歳代・40歳代がそれぞれ1人であった。

尖圭コンジローマ：報告数1人（0.08）で、前月及び前年と同程度であった。患者は20歳代であった。

淋菌感染症：報告数11人（0.85）で、前月の約5.5倍、前年の約1.4倍であった。20歳代が全体の約6割を占めた。



【全国】 定点医療機関総数：974

定点医療機関からの報告総数は4,524人（4.6）で、前月比107%と増加した。疾患別報告数は、性器クラミジア感染症2,342人（2.4）で前月比107%、性器ヘルペスウイルス感染症771人（0.79）で前月比105%、尖圭コンジローマ533人（0.55）で前月比106%、淋菌感染症878人（0.90）で前月比111%であった。

薬剤耐性菌

【宮崎県】 定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は42人（6.0）で前月比114%と増加した。また、昨年7月（2.9）の約2.1倍であった。

《疾患別》

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数41人（5.9）で、前月の約1.2倍、前年の約2.4倍であった。70歳以上が全体の約半数、5歳未満が約3割を占めた。

ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告はなかった。

薬剤耐性緑膿菌感染症：報告数1人（0.14）で、前月及び前年と同程度であった。患者は70歳以上であった。

薬剤耐性アシネトバクター感染症：報告はなかった。

【全国】 定点医療機関総数：470

定点医療機関からの報告総数は1,975人（4.2）で、前月比108%と増加した。疾患別報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症1,679人（3.6）で前月比109%、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症254人（0.54）で前月比106%、薬剤耐性緑膿菌感染症40人（0.09）で前月比113%、薬剤耐性アシネトバクター感染症2人であった。

宮崎県 感染症情報

(71定点医療機関)

2013年 32週(08月05日～08月11日)

疾病名		第31週	第32週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	33	31	3	14	7	2	4			1	
	定点あたり	0.92	0.86	0.30	2.33	1.75	0.67	1.33	0.00	0.00	0.25	0.00
咽頭結膜熱	報告数	49	63	12	13	8	16	6	3		4	1
	定点あたり	1.36	1.75	1.20	2.17	2.00	5.33	2.00	0.75	0.00	1.00	1.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	41	41	10	2	15	1	1			11	1
	定点あたり	1.14	1.14	1.00	0.33	3.75	0.33	0.33	0.00	0.00	2.75	1.00
感染性胃腸炎	報告数	222	179	38	38	2	26	34	17	1	20	3
	定点あたり	6.17	4.97	3.80	6.33	0.50	8.67	11.33	4.25	1.00	5.00	3.00
水痘	報告数	21	45	16		8	4		4		12	1
	定点あたり	0.58	1.25	1.60	0.00	2.00	1.33	0.00	1.00	0.00	3.00	1.00
手足口病	報告数	220	253	104	18	24	22	8	29	1	44	3
	定点あたり	6.11	7.03	10.40	3.00	6.00	7.33	2.67	7.25	1.00	11.00	3.00
伝染性紅斑	報告数	1	1				1					
	定点あたり	0.03	0.03	0.00	0.00	0.00	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	37	53	11	11	9	8	5	4		3	2
	定点あたり	1.03	1.47	1.10	1.83	2.25	2.67	1.67	1.00	0.00	0.75	2.00
百日咳	報告数		1				1					
	定点あたり	0.00	0.03	0.00	0.00	0.00	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	127	117	34	14	34	6	4	11		13	1
	定点あたり	3.53	3.25	3.40	2.33	8.50	2.00	1.33	2.75	0.00	3.25	1.00
流行性耳下腺炎	報告数	10	10	1	3	1					4	1
	定点あたり	0.28	0.28	0.10	0.50	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00	1.00
急性出血性結膜 炎	報告数	1										
	定点あたり	0.17	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	20	21	13	4	4						
	定点あたり	3.33	3.50	4.33	2.00	4.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数		1	1								
	定点あたり	0.00	0.14	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺 炎	報告数		1				1					
	定点あたり	0.00	0.14	0.00	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:58、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点当り報告数

全数把握対象疾患累積報告数(2013年第1週～32週)

2類感染症	急性灰白髄炎	1例	結核	162例(6)		
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	34例(2)				
4類感染症	E型肝炎	1例	A型肝炎	1例	重症熱性血小板減少症候群	3例(1)
	つつが虫病	4例	デング熱	2例(2)	日本紅斑熱	6例
	レジオネラ症	7例				
5類感染症	アメーバ赤痢	7例	ウイルス性肝炎	3例	急性脳炎	6例
	クロイツフェルト・ヤコブ病	3例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2例	後天性免疫不全症候群	4例
	侵襲性肺炎球菌感染症	2例	梅毒	7例(1)	破傷風	3例
	風しん	23例(1)				

()内は今週届出分、再掲